

独立行政法人国立病院機構和歌山病院での実習を終えて



武田 惇平

この度はお忙しい中、臨床実習に時間を割いていただきありがとうございました。和歌山病院で過ごした2日間はとても価値のあるものでした。

副院長の駿田先生には結核について、詳しくご教授いただきました。座学だけではなく、N95 マスクを装着し結核病棟へ行き、結核治療の実際を体験することができました。結核治療の現場をみることで、漠然としたイメージしか持っていなかった結核について、より理解が深まりました。また、駿田先生には、夜ご飯にも連れて行っていただき、色々と興味深いお話を伺うことができました。

院長の南方先生には胸部レントゲン写真の読影の仕方を一からみっちり教えていただきました。ただ覚えるだけでなく、なぜそうなるかを論理的に考えていくことで、今まで持っていた画像読影への苦手意識が少し薄くなったと思います。また、ブロンコ体操という独特の体操も教えていただきました。ダンスや体操が苦手なので、いまだに完璧ではありませんが、しっかりと練習し覚えていきたいと思います。

最後に、院長先生、副院長先生をはじめとし、実習に協力してくださった和歌山病院の方々に感謝を述べたいと思います。二日間という短い間でしたが、どうもありがとうございました。